



安積二小だより

創立150周年 「花と緑と思いやり ひとみ輝く 二小の子」

郡山市立安積第二小学校
学校便り No. 3
令和7年 4月23日
文責：校長 齋藤和彦



「先生、よろしくお願いします」
このひと言の..年間契約で

先週の授業参観には、どの教室にも入りきれないほど多くの保護者の皆様においでいただきましてありがとうございました。

『先生、うちの子をよろしくお願いします』

『はい！こちらこそ..』～きっと、担任の先生と、こんな言葉が交わされたのではないでしょう。か。（※授業を見ながら、きっと心の中で..）

このひと言の契約で、私達にもあらためて“子どもを大切にするスイッチ”が入ります。

～子どもが子どもらしくいられる学校に..

そんな学校運営をめざして、

1 子ども一人ひとりを大切にします

子どもには『学校がすき』と言ってほしい。

『明日の授業が楽しみだから..』なんて言われてみたい。～苦手なこと..困り感..学校に教室に足が向かない..ということあれば、相談しやすいところ（どこにでも・誰にでも・いつでも）にお気軽にお話してください。

◆ 全国的（県内でも）に登校がづらい..児童生徒が増加傾向にありますが、郡山市においては、令和5年度→令和6年度の数値比較で、全学年において不登校、登校困難児童が減少傾向にあります。

各学校（市教委連携）が全力で、『困っている子ども達の居場所づくり』に取り組んできたからです。本校でも、「ここなら、ドキドキしないで学習できるかも..」「こんなスケジュールだったら、前向きな気持ちで月曜日を迎えられるかも..」等々、個々の困り感に寄り添って、できる限りの場所や方策を学校全体で検討します。それでも、“居場所がみつからない”と言うなら、何とかして（何としてでも）作りだす努力を尽くします。

“学校は誰のためにあるか..”

って、子どものために決まっているからです。（何よりも最優先にします）



<校内ケース会議>

“困っている..この子の明日をどうやって笑顔にできるか？”を検討する会議です。

ケースによって、関係職員を招集します。

（校長・教頭・教務主任・担任・特別支援コーディネーター・生徒指導主事・養護教諭、S.C.場合によっては関係機関の専門的助言を依頼）

検討した内容や今後の方策は、保護者にも連絡して、困り感の軽減..解消に向かいます。

※ 迅速に！（つらい時間は短いに限るから）

子どもの命を守るために 「最も臆病な判断」を選択します

4/11 火災想定避難訓練を実施しました。

4/15 は、低学年下校時刻に雷（雷鳴）発生。

落雷の危険を回避するために
児童を校内待機させました。

「あの程度の雷で..」と思われた方もいたかもしれません。



～あらためて、緊急時対応を考えます～

2 子どもの命を守ることを最優先にします

災害発生時（地震/台風/落雷等）の緊急対応では、校長の判断において、子どもの安全：命を守ることを最優先に【特別警戒態勢】を配備します。（※不審者や警察事件発生時も）

この場合、『躊躇なく、最悪の事態を想定した警戒態勢＝最も臆病な判断』を選択するつもりです。もしかしたら、保護者や地域の方々から「そこまでしなくても..」「ちょっと大げさでは..」と言われることがあっても、子ども達の命が守れたならば、その後は、「大げさな判断でしたが、子ども達の命が無事でよかったです。（すみません..）」の覚悟です。

◆◆ 校長室より ◆◆

東日本大震災を経て、宮城県のある警察署長さんは、「30分で津波が来るなら、避難誘導は最初の15分で終えて、逃げなさい。残りの15分は自分も高台に避難しながら、大声で避難を呼びかければいい」と。。

若い警察官たちにそう教え、そして、話を続けた。『飛行機の客室乗務員は、乗客より頑丈なベルトで固定されている。不時着した後、多くの乗客を機外に避難させることができるのは自分たちだけだからです。まだ、その任務が残されているからだ』と。

この話から、校長の私も“先生方には、特別に頑丈なベルトを用意したい”と考えます。

3 働き方改革を推進します

先生方が、いつも元気で/笑顔で/子ども達の前に立つためにです。そのベルトになるのは、保護者の皆様の“先生応援”です。

「先生を信頼すること」「いいこと情報をダイレクトに..先生へ届けてほしい」と願います！

きっと、先生の力は..何倍にもなるはず。。～職員の働きやすさ/やりがい/心的ゆとりを『子どもにかかわる時間の確保』へ！